

高松市 研究のあゆみ

- 1 研究主題 子どもが言葉を通してつながり合う国語科授業の創造
～「課題を解決したい」という関心、「話せた・聞けた・書けた・読めた」という自信がもてる授業づくり～
- 2 研究活動の概要
 - (1) 4月18日(木) 教科主任研修会(中央小学校)
 - ・研究組織作り、研究主題の設定、年間計画作成
 - (2) 6月6日(木) 第1回定例研修会(研究授業・討議)
 - 北ブロック** 屋島東小 3年 段落の内容をとらえて『マイびっくりカード』をつくろう！
「自然のかくし絵」
 - 南ブロック** 浅野小 2年 場面ごとに読もう「お手紙」
川東小 1年 おうちのひとに『どうぶつの中のまもりかたのすごいところ』をおしえよう「どうやってみをまもるのかな」
 - (3) 7月24日(水) 夏季研修会(栗林小学校)
 - ・研修「宮沢賢治さんから物語のコツを学ぼう『注文の多い料理店』」
 - ・講演 香川大学 佐藤明宏教授
「子どもが自ら考える授業づくり ～教育理念と教育技術で支える～」
 - (4) 11月7日(木) 第2回定例研修会(研究授業・討議)
 - 北ブロック** 太田南小 1年 「すきなもののクイズ」をしよう
古高松南小 5年 和の文化を分かりやすく伝えよう
「和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる」
 - 南ブロック** 香南小 5年 和の文化について調べて伝え合おう
「和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる」
国分寺北部小 5年 『和の文化』について調べたことを伝えよう
「和の文化を受けつぐ一和菓子をさぐる」
- 3 研究内容
 - (1) 「課題を解決したい」という関心を高める単元構想や学習問題の工夫

児童の実態把握や単元で付けたい力を見極め、児童が関心をもち続け、主体的に学ぶ単元構想や学習問題の設定を考える。

 - 北ブロック**
 - ① 1年「すきなもののクイズ」をしよう、3年「自然のかくし絵」では、スモールステップでの学習となっており、安心感をもち、生き生きと学習に取り組んでいた。
 - ② 5年「和の文化を受けつぐ」では、単元の始めに書く活動を取り入れたことで、児童が困り感をもち、読み取りへの意欲喚起につながった。

南ブロック

- ① 2年「お手紙」、1年「どうやってみをまもるのかな」、5年「和の文化を受けつぐ」（香南小）では、学習活動をパターン化することで、児童が見通しをもち、自信をもって取り組んでいた。
 - ② 2年「お手紙」では、「おしゃべりタイム」の適宜かつ適切な設定により、ペアでの意見交流が積極的に行われていた。
 - ③ 5年「和の文化を受けつぐ」（国北小）では、単元の導入時に教師がプレゼンをしたことで、ゴールイメージを明確にし、見通しをもって学習に取り組むことができた。
- (2) 「話せた・聞けた・書けた・読めた」という自信がもてる指導過程の工夫

できた、分かったという成功経験を積む機会を設けることで、付けたい力が身に付き、課題解決に対する自信がもてる学習の進め方を考える。

北ブロック

- ① 1年「すきなもののクイズ」をしようでは、マインドマップという思考ツールが活用されていた。マインドマップを書く活動を積み重ねることで、語彙が増え、どんどん書けるようになっていた。
- ② 5年「和の文化を受けつぐ」では視覚化の手立てとして、自分の立場を明確にする赤白帽の活用、フィッシュボーンという思考ツールの活用がされていた。フィッシュボーンの中に段落相互の関係性を矢印で示したり、対立した意見を黒板の端と端に記述したりするなど、板書の構造化にも役立っていた。

南ブロック

- ① 5年「和の文化を受けつぐ」（香南小・国北小）では、ICT が効果的に活用されていた。電子黒板・タブレット・実物提示装置などが情報収集や学習の振り返り、グループ発表等に活用されていた。
- ② 5年「和の文化を受けつぐ」（国北小）では、グループ交流で学ボードを活用していた。グループみんなの意見が反映できていた。
- ③ 1年「どうやってみをまもるのかな」では、動物になりきって動作化することにより、体感したことが言葉となって表現され、言葉を確実に獲得できていた。

4 県の研究との関連

〔今年度の研究での成果〕

- 付けたい力を明確にし、主体的に学ぶ子どもの育成
初発の感想をもとに、児童が解決したいと思う学習問題を作ったり、児童とともに単元構成を考えたりすることは、児童自身に学習の見通しが立ち、付けたい力の意識化が図れた。
- 「自信」をもたせる工夫
学習スタイルをパターン化しスモールステップで学習を進めることで、できなかったことができるようになったことを自覚させることができ、自信をもたせるために有効であった。

〔今年度の研究での課題〕

- ・ 児童自身に、自分が今、何を学んでいるのか、そしてそのことを次にどう生かしていくのかという学びの自覚と展望をもたせることが大切である。

小豆支部 研究のあゆみ

1 研究主題

付きたい力を明確にし、その力につながる児童の「関心」を高めたり
「自信」をもたせたりする授業づくり

2 研究活動の概要

- (1) 4月25日(木) 土庄小学校 研究組織作り、研究計画の立案
- (2) 5月29日(水) 土庄小学校
 - ①四国大会での提案発表について
 - ②第4学年「ごんぎつね」教材研究
- (3) 9月19日(木) 苗羽小学校
 - ①第4学年「ごんぎつね」研究授業
 - ②指導・講話

指導者 香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事

3 研究内容

- (1) 1回目の研修について

「付きたい力」と「自信」、「関心」の関係を大切にした授業づくりのための単元展開について、「あそびのやくそくを話し合おう」(2年下)の実践事例をもとに研修した。

「付きたい力」と「自信」、「関心」の関係を大切にすることは、付きたい力を自覚しながら力の獲得に向け進んで学ぶ子や、自信を深めたり新たな課題意識をもったりしながら関心を持続させる子どもを育成することにつながる。そのことを検証するために実践した単元づくりと授業の実際についてまとめた提案資料を、夏季研修会や四国大会でより分かりやすく伝えるための資料推敲を行った。

また、第4学年「ごんぎつね」の教材をもとにして、二者関係に着目して読むという新たな読みの視点を獲得させるために教材研究を行った。

- (2) 2回目の研修について

第4学年「ごんぎつね」の授業研究を行った。ごんと兵十の二者関係に着目して読んでいくと、毎時間の感想に深まりが見られ物語がもっと楽しく読めることを実感することを子どもとともに検証していくことができる実践であった。

「二者関係に気を付けて読むと物語がもっと楽しく読めるかたしかめよう」という課題を解決していくため、二者の思いが比較できてまた互いに思いを寄せている状態

が矢印や色等で簡潔に示すことができるようワークシートが工夫されており、視覚的にも人物の気持ちの変化を捉えやすく有効であった。

二者関係が変化しながら話が展開していく本の並行読書を行い、自分が選んだ本のブックカードを作って本とともに廊下に掲示するという言語活動が、二者関係に着目して読む楽しさを更に実感することにつながる有効な手段であり、大変参考になった。

指導者からは、学び合う授業づくりの視点や中心となる人物と他の人物との関わりを読む上での発達段階に応じた各学年での学びについての指導をいただいた。

(3) 成果と課題について

- ・ 四国大会の提案資料は、プロット立てやテーマに迫る取り組みのまとめ方等を何度も検討する中で焦点化できてきた。
- ・ 若年教員始め全ての教員にとって、付けたい力を明確にして単元をカスタマイズしたり、ことばに着目した話し合いの学習を計画的に展開したりすることについて考える機会となり、今後の授業づくりにおいてとても参考になった。
- ・ 授業研究では、二者に着目した読み方を習得させるため、ワークシート、板書、取り組む言語活動はどうあるべきかを考えられた。やはり、子どもの力を付けるには、並行読書を行い、教科書で学んだ読み方を今後の読書活動につなげていく学習を展開していきたい。
- ・ 付けたい力は学級の実態に合わせなければいけない。教科書の内容を教えるのではなく、学習状況調査や町のテスト分析、学級の実態把握等から、子どもに必要な力を明確にしていくことが大変重要である。
- ・ ワークシートを活用し、読み進めてきた感想の深まりが一目で確認することは、学習過程や自分自身の伸びが実感できる点で有効であり、どの授業においても汎用できる。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】 関心を持続させる授業づくり

毎時間の付けたい力やできるようになったことが一目で分かるようにしたことで、単元を通して子どもが自ら継続的に付いた力をメタ認知し関心の意欲につながった。

【今年度の研究での課題】 付けたい力の明確化

付けたい力や付いた力を子ども自身が他の単元や他教科で生かすための支援を考えていくことが今後の課題である。

さぬき・東かがわ市部 研究のあゆみ

1 研究主題 児童が主体的に学ぶ国語科学習の在り方

－付けたい力に対する児童の「関心」を高めたり「自信」をもたせたりする支援の工夫－

2 研究活動の概要

- (1) 4月26日(金) 研究主題設定, 研究組織作り, 研究計画立案
- (2) 6月28日(金) 研究授業 東かがわ市立大内小学校
4年 「人物の変化をとらえよう 走れ」
指導者 東部教育事務所 主任指導主事
- (3) 9月 4日(水) 社会を明るくする作文「ともしび」作文審査会
- (4) 11月22日(金) 研究授業 さぬき市立津田小学校
1年 「のりもののことをしらべよう いろいろなふね」
指導者 東部教育事務所 主任指導主事
- (5) 1月17日(金) 児童文集「はらっぱ」の編集作業

3 研究内容

- ・ 6月の研究授業では, 教材文「走れ」において, 叙述を基に3場面の主人公の心情を読み取り, それまでの場面と心情が変化した理由を考えるという学習を行った。キーワードや心情を付箋に書いて, 貼る高さを変えた心情曲線をつくることで, 気持ちの変化がはっきり分かるとともに, 変化した理由を考えることができた。また, 各場面のワークシートをつなげてそれまでの場面と比較したりつなげたりしながら, 登場人物の心情の変化について根拠をもって捉えることができていた。そして, 意見交流したことを基にして, 次時の主人公への手紙を書くという活動に意欲をもたせることができた。
- ・ 11月の研究授業では, 個人で作成した乗り物カードを集めた「乗り物図鑑」を作成するという言語活動を設定した。本時では, 消防艇の「役目」「つくり」「できること」を観点毎にまとめ, カードを作成する学習を行った。教材文は, それまでに出てきた客船・フェリーボート・漁船についての文型や文章構成が似通っている。そこで, 「役目」「つくり」「できること」を色枠で囲み, 学習をパターン化させることで, 子どもたちはこれまでに出てきた文章表現と比較しながら, 迷わずにカードにまとめられていた。そして, 自分が乗り物図鑑を作る際にも, 「役目」「つくり」「できること」の3点について書かれた部分を抜き出すことが大切だと理解することができた。

4 県の研究との関連

【研究の成果】・「関心」を高め, 「自信」をもたせる支援

・物語文の学習で主人公への手紙を書く際に, 心情曲線を思い起こすことで主人公の気持ちの変化を捉えることの大切さを自覚したり, 説明文の学習でパターン化した繰り返し学習を行うことで, 自信をもって文章を読み取れるようにしたりするなど, 付けたい力に対する「関心」を高め, 「自信」をもたせる支援を意識した学習指導が行えた。

【研究の課題】・「関心」を継続させ, 「自信」を深めさせる支援

・繰り返し学習は子どもの自信を深めるには有効な学習方法であるが, 新しい気付きがないとマンネリ化してしまう。1単位時間の中に新しい気付きをもたせることで関心・意欲が継続していく。子どもが主体的に学んでいくための関心を継続させたり, 自信を深めさせたりする支援の方法について, さらに研究を深めていく必要がある。

丸亀市部 研究のあゆみ

1 研究主題

児童が自ら学ぶ国語科学習の展開
ー付けたい力を明確にし、その力につながる子どもの「関心」を高めたり
「自信」をもたせたりする授業づくりー

2 研究活動の概要

- (1) 4月17日 城南小学校 研究組織作り、研究主題の設定、年間計画作成
- (2) 5月29日 郡家小学校 四国国語教育研究大会の提案内容について
- (3) 11月27日 城西小学校 授業研究・討議
第3学年 「調べたことをもとにリーフレットを作ろう～『もうどう犬の訓練』」

3 研究内容

- (1) 5月29日 郡家小学校 四国国語教育研究大会の提案内容について
丸亀支部の提案「自己の高まりを実感し、意欲的に取り組む国語科学習の授業づくりー身に付けさせたい力を付けるための効果的な ICT 機器の活用方法ー」について提案内容やまとめ方について話し合った。
第6学年 単元『町の未来をえがこう 町の幸福論ーコミュニティデザインを考える』(東京書籍)を通して、集めた情報を目的に応じて取捨選択したり加工したりする力、複数の資料から読み取った情報を効果的に活用することができる力を育てることを目指した。
本実践を基に、次の2点を重点として提案発表を行った。

- (1) 身に付けさせたい力の明確化
- (2) 身に付けさせたい力を付けるための効果的な ICT 機器の活用方法

討議では、提案意図が明確になるための改善点について活発な意見が話し合われた。

- (2) 11月27日 城西小学校 授業研究・討議第3学年
「調べたことをもとにリーフレットを作ろう～『もうどう犬の訓練』」の授業研究では、盲導犬の訓練について書かれた文章を読んだり、自分で調べたりしたことをリーフレットにまとめて紹介する活動を通して、大事な言葉や文を見つけながら読み、書かれている内容を要約する力を身に付けることを目標とした。
そのために、以下の5点に留意した。
 - ① 児童が見通しをもつための手立て
 - ・リーフレットのモデルの提示

- ・学習計画の可視化
 - ・ワークシートの活用
 - ・振り返り活動の充実
- ②語彙の拡充を図るための手立て
- ・国語辞典の活用
- ③対話的活動の充実を図るための手立て
- ・相互評価の場の設定
- ④要約する力を高めるための手立て
- ・教科書教材を使って要約する活動
 - ・各自が選択した図書資料を活用して要約する活動の導入
- ⑤教科書教材と図書資料の難易度の差を埋めるための手立て

児童が文章を要約する際に、教科書教材と自分が選書した図書資料では文章の構成や内容、表現において難易度に差がある。そこで、教科書教材と図書資料の難易度の差を埋めるために、全員で共通の図書資料を要約する活動を行った。

授業討議では、次の7点について話し合った。

- ① 国語辞典の活用の有効性
- 国語辞典を使うことで、子どもたちが図書資料に書かれてある難解語をわかりやすい言葉に言い換えることができていた。
- ② リーフレットについて
- リーフレットとパンフレットの違いを意識させる。
レイアウトや字数を制限した方がよい。制限をかけることで、児童の意欲も高くなる。
下書きは、鉛筆で書く。色を付ける必要はない。
- ③ 要約する技について
- 「大事な言葉」には、筆者が一番伝えたいこと、児童が伝えたいことの2種類ある。
「大事な言葉」とは何かを共通理解する必要がある。
大事だと思う言葉や文を発表するだけでなく、その理由を発表させる必要がある。
理由を語ることは、言葉による見方・考え方を働かせることにつながる。
- ④ 学習指導過程について
- 「要約すること」→「意味調べ」→「リーフレットづくり」と活動内容が多すぎた。
児童の個人差が大きいので、活動内容を時間で区切るなど整理する方がよい。
- ⑤ 本時に使用した図書資料について
- 何についてまとめるのかを明確にしておく必要がある。そのためには、題名を消した資料を提示する方法もある。また、資料を読んで何を伝えたいかを児童に問うてもよかった。自分が伝えたいことなら、より主体性が高くなる。
- ⑥ 相互評価について
- 相互評価をする際には、判断の基準となるものが必要である。本時の場合、「題名に対しての答えが入っていたか。」「この要約で伝わるのか。」という話し合いが必要である。
- ⑦ 振り返りにについて
- 振り返りを積み重ねていくことで、児童の自信が高まっていることが分かった。また、友だちから学ぼうという姿勢も見られた。参考にしたい。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】 「自信・関心」を高める。

- ・ 第6学年 単元『町の未来をえがこう 町の幸福論ーコミュニティーデザインを考える』（東京書籍）の実践発表に向けての話し合いでは、ICT活用の有効性を共通理解することができた。ICTを活用し、相互評価することで、児童は自分の課題を意識することができる。これは、身に付けたい力に対する子どもたちの「関心」を高めることにつながる。
- ・ 第3学年「調べたことをもとにリーフレットを作ろう～『もうどう犬の訓練』」の授業研究では、児童の実態から、教科書教材と図書資料の難易度の差を埋めるための時間を設定し、単元を構成した。その結果、図書資料に対する児童の抵抗感が減少し、児童の自信を高めることができた。

【今年度の研究での課題】

- ・ 「自信」をもたせるためには、成功経験を積むことが大切である。今年度の授業研究で行ったように、並行読書を取り入れたり、既習事項を繰り返し使う場を設定したりする等、単元構成を工夫することで、付けたい力が児童に身に付くようにしたい。

仲多度郡・善通寺市 研究のあゆみ

1 研究主題 児童が自ら学ぶ国語科学習の展開

2 研究活動の概要

- (1) 4月23日 研究組織作り，研究主題の設定，計画立案
- (2) 6月11日 第一回研究授業 1年 「きいてつたえよう」
- (3) 7月24日 「つけたい力を明確にし、関心を高めたり、自信を持たせたりする単元や授業の作り方」 別府大学短期大学部 教授 古川 元視
- (4) 11月15日 第二回研究授業 3年「せつめいのくふうについて話し合おう」
(教材文「すがたをかえる大豆」)

3 研究内容

第1回の研究授業では、学習指導要領における「A 話すこと・聞くこと」の「大事なことを落とさないようにしながら、興味をもって聞くこと」を重点指導事項とし、大事なことを聞いたり伝えたりする活動を通して、話の内容を正しく聞き取る力を育成することを目標とした授業が提案された。

これまでに児童は「話すこと・聞くこと」の学習として、「みんなのせかい」「はきはきあいさつ」などの単元を学習しているが、これらは話す力を養うことが主なねらいだった。そこで、本単元では、ただ正しく教師の連絡を聞くだけでなく、教師の連絡を聞いた児童が、それを友達に伝えるという活動が行われた。正しく聞かなければならない状況を作ることで児童に聞くことを意識づけるとともに、聞く態度だけでなく、内容の聞き取りが重要であることを実感できるようにした授業であった。

本時では、2年生のペアの友達に生活科の持ち物について連絡するという課題を与え、持ち物についての話をどのように聞けばよいのかを、連絡を聞いている教師の役割演技をもとに考え、交流した。児童はどのようにしたら正しく話を聞き取って伝えることができるのかという課題意識を明確に持ち、意欲的に課題に取り組むことができていた。そのなかで、話を聞くときには、相手の言っていることを繰り返したり、うなずいたりしながら聞いた方がよいということに気が付くことができた。また、必ず伝えなくてはいけないことは持ち物であることをおさえ、持ち物について話しているときには、特に気を付けて聞いた方がよいということも考えることができた。

討議では、①児童の必要感や意欲を高める学習課題になっていたか、②教師の聞き方をもとにより聞き方について考えるという本単元の言語活動が適切だったかといったことについて話し合った。

第2回の研究授業では、学習指導要領における「C 読むこと」の「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述をもとに捉える

こと」を重点指導事項とし、各段落の接続語や中心となる語や文に着目することで、段落相互の関係や筆者の説明の工夫についての理解を深めることを目標とした授業が提案された。

第1次では、「食べ物へんしんブック」を書くために筆者の説明の工夫を見つけるという見通しを持たせ、段落を「はじめ」「中」「おわり」に分け、「はじめ」と「おわり」の役割を考える。第2次では、「中」の内容を読み取り、筆者の説明の工夫を見つける。第3次では、読み取った説明の工夫をもとに「食べ物へんしんブック」を書く。という単元構成だった。

本時では、筆者は大豆を使った食品についてどのような順で例を挙げているのか、ということについて考えた。児童は、「一晚」や「一日」などの製造にかかる日数を表す言葉や「いる」「すりつぶす」などの製造方法を表す言葉に着目し、製造方法が簡単な食品から例が挙げられていることに気が付くことができた。また、なぜ製造方法が簡単な食品から例が挙げられているのか考える際には、読み手の立場に立つことで、読み手が読みやすいようになっていることをおさえ、筆者の説明の工夫をまとめることができた。

討議では、学習課題の在り方や本時の学習課題と「食べ物へんしんブック」を書くという言語活動が合致していたか、ということについて話し合った。

4 県の研究との関連

【今年度の研究での成果】

○ 児童の意欲を引き出す学習課題の設定

どちらの研究授業でも、「他学年に持ち物を伝える」「食べ物へんしんブックを書く」という学習課題を第1次に設定し、目的意識を明確にすることで、児童は見通しを持つとともに、学習の意義を見出し、目的の達成に向けて主体的に学習に取り組む姿が見られた。

【今年度の研究での課題】

○ 児童一人ひとりが自信を持てる学習支援

児童一人ひとりが自信を持って学習に取り組めるようにするためには、児童が自分の考えを明確に持てるようにすることが大切である。個別の支援はもちろん、ペアやグループでの意見交流など、児童が自分の考えを形成できる支援や授業構成について探っていきたい。

三豊・観音寺市部 研究のあゆみ

- 1 研究主題 児童が主体的に学ぶ国語科学習の工夫
— 言葉による見方・考え方を働かせて、考えを深める授業を目指して —

2 研究活動の概要

- (1) 4月24日(水) 三観小研教科部会研修会(三豊市豊中町体育館)
 - 研究主題・組織等の決定
 - 第29回四国国語教育研究大会(香川大会)
令和元年度香川県小学校教育研究会国語部会研究発表会に向けて
(以下「四国大会」とする)
 - ・ 三豊市立詫間小学校の研究
 - ・ 運営における三観小研国語部会での役割分担
 - 第35回三観地区作文コンクール
- (2) 6月4日(火) 三観小研国語部会部員研修会(三豊市立詫間小学校)
 - 四国大会の指導案検討
- (3) 7月24日(水) 三観小研国語部会夏季研修会(三豊市立詫間小学校)
 - 香小研夏季研修会に向けて
 - ・ 三豊市立詫間小学校の研究報告
 - ・ 四国大会の授業検討
- (4) 10月9日(水) 三観小研国語部会理事研修会(三豊市立詫間小学校)
 - 四国大会の模擬授業及び討議
 - 四国大会当日の運営について
- (5) 11月29日(金) 第29回四国国語教育研究大会(香川大会)
令和元年度香川県小学校教育研究会国語部会研究発表会
(三豊市立詫間小学校・三豊市文化会館マリソウエブ)
 - 公開授業・授業討議(分科会Ⅰ)
 - 提案発表(分科会Ⅱ)
 - 研究報告・講評
 - 講演
- (6) 12月10日(火) 三観小研国語部会理事研修会(三豊市危機管理センター)
 - 第35回三観地区作文コンクール編集委員会①
 - ・ 審査準備
- (7) 1月6日(月) 三観小研国語部会理事研修会(三豊市危機管理センター)
 - 第35回三観地区作文コンクール編集委員会②
 - ・ 審査

3 研究内容

- (1) 教科部会研修会・部員研修会・夏季研修会・理事研修会
 - ① 研究主題や研究内容を共通理解した後、部会組織を提案・承認後、研究計画を検討した。
 - ② 第29回四国国語教育研究大会(香川大会)並びに令和元年度香川県小学校教育研究会国語部会研究発表会に向けて、詫間小学校の実践発表をもとに、同小学校の研究内容について研修を深めた。そして、運営における三観小研国語部会での役割分担及び、香川大会当日の名簿作成や、担当学年の確認を行った。
 - ③ 各学年部会で、大会当日の指導案検討や模擬授業を行った。

(2) 第29回四国国語教育研究大会（香川大会）

令和元年度香川県小学校教育研究会国語部会研究発表会

① 公開授業

第1学年 いろいろな国の歯がぬけたときにすることを紹介し合おう

【説明的な文章】「歯がぬけたらどうするの」授業者；綾 美代子

第2学年 宮西達也さんのお話のおもしろさを紹介し合おう

【文学的な文章】「ニャーゴ」授業者；松本 育代

第3学年 世界の家のつくりについて紹介しよう

【説明的な文章】「人をつつむ形ー世界の家めぐり」授業者；細川 由貴

第4学年 物語を読んで人物の幸せについて考えたことを伝え合おう

【文学的な文章】「世界一美しいぼくの村」授業者；吉田 晴

第5学年 和の文化をわかりやすく伝えよう

【説明的な文章】「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐる」授業者；岡根 平

第6学年 物語が語りかけてきたことを友達と話し合おう

【文学的な文章】「海のいのち」授業者；樋笠 智子

② 三豊市立詫間小学校の研究

研究主題

こころはずむ、主体的に学ぶ授業づくり
ー 言葉による見方・考え方を働かせて、考えを深める授業を目指して ー

ア 研究主題について

(ア) 「こころはずむ」とは

確かな学力が身に付くことで自信が高まる。自信が高まることで、「もっと知りたい」「それからどうなるの」というわくわく感、ドキドキ感も高まる。学ぶ意欲を高める課題、解決したい課題に支えられた新たな気付き、学習意欲の高まりが、こころはずむ学びの喜びを蓄積することにつながると考える。

(イ) 「主体的に学ぶ」とは

私たちは、児童自身が目的意識や具体的な見通しをもって問題解決に向かい、積極的に交流を求めていく授業を目指している。そのために、課題を解決する一手法として、思考ツールを活用させたり、ペアやグループなどの適切な学習集団を設定したりする。このことが、児童一人一人に考えを確実にもたせることにつながり、主体的に学びを進める姿に結び付くと考える。

(ウ) 「言葉による見方・考え方を働かせる」とは

児童自身による問題解決を保障するため、「何に目を付けて」「どう考えたらいいのか」という「言葉による見方・考え方」を「読むコツ」として児童に意識させながら積み上げていくことが大切だと考える。

イ 研究内容の重点

前述の3つの課題から研究を進めていくうえで大切なことは、付けたい力を明確にして、児童が主体的に問題を見だし、言葉による見方・考え方を働かせながら、協働的に解決していくことだと考えた。このような学習を繰り返すことで、自分の力で学習問題を解決できるようになれば、学ぶこと自体を楽しみながら主体的に学習に取り組む児童が育つと考えたからである。そこで4つの研究の重点をおいて研究を進めることにした。

(ア) 言葉による見方・考え方を鍛える

教師が、単元の教材研究において活用する「言葉による見方・考え方」を明確にしておく。

そして、学年別の表を作成し、系統を意識できるように配慮してきた。児童は、教師とともに「見方・考え方」を働かせ、言葉の価値に気付いたり、言葉を選んだり、問い直したりして、活用できたよさを感じていく。さらに、「見方・考え方」をカードにして提示し、授業の終末の評価や学びのコツとして繰り返し活用できるように工夫している。

(イ) 学習問題づくりの改善

どのような学習問題が付けたい力につながるのか、教師が教材研究し、言語活動を工夫する。そこで、児童が解決したくなる問題となるように、どのように児童の意識をつなぎ、どのように学習問題を設定するとよいか計画表を作成し実践している。

(ウ) 協働的な交流活動の実践

ペアやグループ学習、全体での交流活動の場を設定し、お互いの立場を尊重しながら話し合い、友達に関わって考えを深める学習を展開する。その際協働的に問題解決に向かえるように、友達の考えへの関わり方を指導したり、それぞれの主張の異同が明確になるよう、思考ツール、発表ボード、ノート等を効果的に活用したりしている。さらに、価値あるグループ活動になるよう、場面の選択についても研究をしてきた。

(エ) 豊かな言葉を育む環境づくり

児童が楽しみながら語彙を豊かにできるようにする。そのために、語彙を豊かにする活動を実践したり、校内掲示を工夫したり、読書タイムを活用したりするなどの校内環境を整備している。

ウ 研究構想図



エ 取組の実際

言葉による見方・考え方を鍛えるために

【「言葉による見方・考え方」の捉え方】

学習指導要領（平成29年告示）で、『各教科の見方・考え方は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。』と示された。そして国語科の目標の冒頭においても、『言葉による見方・考え方を働かせ〜』とあり、児童自らが「見方・考え方」を働かせることが付けたい資質・能力につながるとある。また、『言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることである。』と述べられており、児童が「見方・考え方」を獲得し、さらにそれを働かせる授業が重要であると考えた。

そこで本校では、学習指導要領をもとに「見方」は、言葉の意味や働き、使い方などに着目とし、「考え方」は、授業で活用させたい比較、関係付け、具体化、総合、吟味に絞り、分けて考えた。児童自身の問題解決のために、「何に目を付けて」「どう考えたらいいのか」という見方・考え方を「読むコツ」として積み上げることで、言葉による見方・考え方を鍛えようと考えたからである。

本校における見方・考え方の捉え方

見方：言葉の意味や働き、使い方などに着目

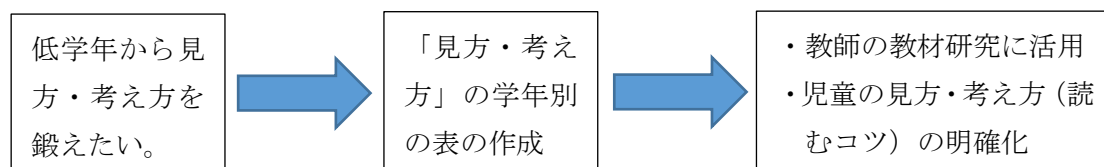
考え方：比較、関係付け、具体化、総合、吟味

比べる つなぐ 動作化する等 まとめる 問い直して深く考える

【「見方・考え方」の表の作成】

どんな言葉や文などに着目したらいいのか、どう考えるといいのかという「見方・考え方」（読むコツ）を教師が捉えておくこと、そしてそれを低学年から育て鍛えていくことが大切であると考えた。そこで、児童が着目し活用するとよい「見方・考え方」を考え、低学年から中学年、さらに高学年へとつながりが分かる表を作成した。

教師は教材研究の際、この「見方・考え方」の表を活用し、具体的に着目させたい言葉や文を書き出すようにした。このことにより、児童が働かせるとよい「見方・考え方」を明確にでき、実際の授業で活用できるように助言することができると考えた。



【「見方・考え方」カードの作成と活用】

授業の中で、児童が自ら「見方・考え方」を働かせることができるように、「見方・考え方」カードを作って掲示したり、必要に応じて板書の中に入れたりしている。そして、それを「説明文や物語を読むコツ」や「読むときのピカリ」と呼んで、活用できるようにしている。

この「見方・考え方」を、授業の最初に確認したり、授業の途中で新しく出てきたものを価値付けたり、授業の最後に、振り返り活動の中で確認して意欲付けをしたりする。

坂出・綾歌支部 研究のあゆみ

1 研究主題

児童が自ら学ぶ国語科学習の展開
一付けたい力を明確にし、その力につながる児童の「関心」を高めたり
「自信」をもたせたりする授業づくりー

2 研究活動の概要

- (1) 4月17日 研究組織作り，研究主題の設定，研究計画立案
- (2) 6月 5日 研究授業①(坂出 加茂小学校)
4年「メモの取り方を工夫して聞こう」
- (3) 10月17日 研究授業②(綾歌 宇多津小学校)
6年「海のいのち」

3 研究内容

(1) 研究授業①より

本単元では、メモを取りながら、ものの作り方の手順を説明する話を聞く活動を通して、話の組み立てをとらえて、大事なこととその理由をメモに取りながら聞く力を付けることをねらいとして学習を進めた。

本時は、「梅干しの作り方」の説明を聞いて、前時に取ったメモを見直ししながら、「メモを取る時に大切なことを考えよう」の学習課題をもち、大事なことを聞きのがさないための話の聞き方を話し合い、自分のメモを加筆修正する活動を展開していった。

必要なことが何かを意識しながらメモを取る力を付けるために、①すること②大事なこと③理由の観点カードを提示し、観点ごとに色分けした短冊を使って板書をすることで、児童の思考が整理されていった。また、共通の視点で話し合いができるように、板書と同じ観点カードを児童に配布し、それをホワイトボードに貼りながら、グループでの交流が図れていた。自分のメモを加筆修正していく活動では、学びの深まりが実感できるように、1回目の修正を赤、2回目の修正を青で行い、形成的自己評価ができた。

授業後の討議では、付けたい力を明確にして、系統性を活かした授業、児童の実態をもとにスモールステップの授業を積み重ねることが、児童の自信を付けることにつながる事が再確認できた。

主体的な学びには、目的意識が大切であり、自分が作るという目的がはっきりすれば、どのようにメモを取るか、どの言葉に着目するかが明確になることや、対話的な学びのために、新しい観点到に気づき、自分の考えに自信をもち、見通しを持つという対話の目的について、ご指導をいただいた。

(2) 研究授業②より

本単元では、物語が強く語りかけてきたことを伝え合うという活動を通して、人物の行動や心情を表す叙述に即して読み取ったことから、自分の考えをまとめる力を付けることをねらいとして学習を進めた。

本時では、「太一の瀬の主に対する思いは、どのように変わっていったのだろう」という学習課題をもち、中心人物である太一の行動や心情を表す叙述や太一と瀬の主の関係性を表す叙述に注目しながら、読み取る活動を展開していった。

活動に際して、単元を通して作成してきた人物関係図を活用し、太一が他の人物との関わりの中で受けた様々な影響についても考えながら読みを深めていった。どこで太一の心情が変わったのかをグループで話し合う場面では、叙述に基づいて自分の考えを自信をもって発言する児童の姿が見られた。また、自分の考えをまとめたり伝えたりする際に、人物関係図の中から根拠となる叙述を示そうとする児童の姿が見られた。

授業後の討議では、児童の意識に沿った学習課題の設定の仕方や、人物関係図の活用の仕方の工夫について意見交流が図れた。児童の初発の疑問を大切にしながら、より焦点化された学習課題を設定することの大切さや、導入時から人物関係図を用い、まとめの時に人物関係図に戻って考えを付け加えていくなどの工夫の必要性が再確認できた。

付けたい力を明確にして言語活動を設定する際に、児童が自分の目的意識をもって主体的に取り組めるような活動になっているか、自分が解決したい、疑問や興味をもって挑戦したいと思える課題になっているかということの重要性についてご指導をいただいた。

4 県の研究との関連

【今年度の研究の成果と課題】

(1) 関心を高める

2つの授業研究を通して、目的意識の大切さが実感できた。どちらの授業も、単元の始めにゴールを示しており、子どもたちが学びのゴールを見通して学習に臨めるようになっていた。授業研究①では、学習したことを生かして、メモを取りながらおもちゃ作りの説明を聞き、そのメモを見ながらおもちゃを作るという課題に向かって、児童は必要感を持ち意欲的に学習に取り組むことができていた。授業研究②では、物語が最も強く語りかけてきたことを自分の言葉でまとめ、伝え合うために、自分たちが疑問に思ったことから学習課題を設定し、話し合いながら解決していく学習の積み重ねの中で、叙述に基づいて自分の考えをまとめる力が身に付いてきていた。

さらに、自分と友達の考えとの違いを明らかにしにして、児童の知的好奇心を促すような展開の工夫や、友達と交流する際に、考えを視覚化できるような教具の工夫についても研究を進めていきたい。

(2) 自信をもたせる

授業研究①での児童の実態に合ったスモールステップの単元構成、授業研究②での既習の人物構成図を使った単元構成から、これまでに身に付けた力を生かし「できた」という成功体験を積み重ねることで自信をもたせることの大切さを実感することができた。

さらに、ペアやグループでの対話を通して、児童が自信をもてるように、どのような手立てを考えて学び合う場を設定することが有効であるのか研究を進めていきたい。